

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○多様な学習活動の充実
主な取組	青少年交流体験事業		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	<p>・県民が地域の自然環境、歴史、文化等に親しみ、本県の魅力に対する認識を深め、その地域における課題等について主体的に学べるよう支援するため、学校・地域における自然体験学習や読書活動等の多様な学習活動の充実、社会教育指導者等の資質向上等に取り組めます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
<p>県内の青少年を他県に派遣し、交歓交流・学習の機会を設けることにより、青少年の健全育成を図る。また、他県の青少年と県内小中学生との交流の機会を設け、児童相互の友情を育む。</p>	<p>県関係団体</p>	青少年交流体験事業の実施		
		派遣児童・生徒数(累計)		
		160人	160人(320人)	160人(480人)
担当部課【連絡先】	こども未来部こども若者政策課 【 098-866-2100 】		関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	青少年交流体験事業			予算事業名	青少年交流体験事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	補助	7,845	7,518	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	補助	7,518
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
令和6年7月に九州へ小中高生を160人、12月に兵庫県へ小中学生90人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。				令和7年7月に九州へ小中高生を144人、12月に兵庫県へ小中学生80人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。		

活動指標名	派遣児童・生徒数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		38人	234人	234人	160人 (480人)	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標160人に対し、目標値を大幅に上回る234人を九州・兵庫に派遣し、児童生徒の交歓交流・学習の期間を設けることができた。青少年の健全育成を図るとともに他県の青少年と県内小中学生との交流の機会を設け、児童相互の友情を育むことができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 事業実施後、早急に改善点をまとめ、次年度内容に反映させる。 県広報誌等以外で、実施主体側のSNS広報等も活用し、事業の認知度向上を図る。 	<p>役職員会議を行い改善点をまとめ、新たな訪問先を決定することで、多くの経験と交歓交流・学習の機会を設けることができた。</p> <p>研修の様子等を実施主体側のSNSを活用し周知することで実施状況を確認することができていたが、引き続き周知広報に取り組む必要がある。</p>

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	派遣先での訪問施設が多く、個々の訪問先での時間が短くなったため、実施内容について事前調整を行い、十分検討する必要がある。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	応募生徒の年齢層に偏りがあるため、決定した事業の実施内容について、周知方法を検討し、幅広い年齢層への周知が必要である。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
④ 創意工夫による取組の改善 (合理化・効率化)	参加した児童生徒や関係職員の意見、事前調整での気づきをまとめ、実施内容に反映させる。
④ 創意工夫による取組の改善 (合理化・効率化)	県広報誌や実施主体側のSNS広報等を活用し、事業の認知度向上を図る。

